



「なかっこカフェ」は、子どもと高齢者の食事を通した交流の場です。昨年12月にあった主任児童委員の研修会で、県の職員から「子ども食堂をやってみませんか」という話がありました。交流できる食事の場に高齢者を連れ出したいという思いがあったので、この話を聞いたときに「これだ!」と思いました。公民館長と公民館の女性部「ゆめはな会」に相談して、民生委員やPTAにも協力をもらいながら準備を進めてきました。今日の開催に向けて試食会もしたところ、反省点もたくさん出て、肉の部位を変えたり、カレーを変えたりしました。その甲斐あって、子どもたちも美味しいと言って、おかわりしてくれたのがうれしかったですね。これからは、高齢者から地域のことを教えてもらったり、金吾様踊りのことを話し合ったりできるようにしたいので、なかっこカフェを続けられるように頑張りたいですね。

——— 蓑牟田 律子 さん



＼ごちそうさまでした!／



中津川に生まれた 子どもと高齢者の交流の場 なかっこカフェ

11月13日、中津川地区に新しい交流の場が誕生しました。子ども食堂「なかっこカフェ」は、地域の子どもと高齢者が参加料を支払い、食事を通して交流する場です。この日は小学生18人、中学生3人、高齢者2人が訪れました。土曜授業を終えたばかりの子どもたちは、口いっぱいにカレーを頬張り「おいしい!」と笑顔を見せました。

主任児童委員の蓑牟田律子さんが中心となり、地域やPTAの協力のもと中津川交流館で第2土曜日の授業がある日に開かれます。食材の中には寄附されたものもあり、使用されたお米もその一つ。種もみの産地である同地区で育った新米が使用されました。これから月に一度、食卓を囲む子どもと高齢者の笑い声が聞こえてきそうです。



この日給食を担当した久保千津子さん、白石悦子さん、蓑牟田律子さん、堂園和子さん、宮脇順子さん。(左から)初めての試みでしたが、無事に料理を提供することができ、ほっとした表情を見せました。

